

## 5 呼吸器内科研修プログラムの概要

### 1. プログラムの目的と特徴

呼吸器病学全般の知識と臨床能力を高めることを目的とし、さらに自らの専門分野の選択とその領域での臨床研修の充実をはかることをめざす。呼吸器科領域のいわゆる common disease（肺癌、肺炎、気管支喘息、呼吸不全、気胸など）について豊富な症例を経験することができ、また臨床各科にまたがる複合的症例においても各臨床科専門医に consult しながら適切な研修を行うことが可能である。また呼吸器科領域の救急症例についても救命救急センターの病床を利用して担当する機会も多く、救急医療の研修も充実している。

### 2. 研修内容と到達目標

#### 1年目（卒後3年目）

臨床： common disease を中心に呼吸器疾患入院患者を指導医との共同主治医制で診療する。診断および治療方針決定に必要な検査計画を指導医と共に立案する。

正確で分かりやすい診療録記載、文書を用いた検査および病状説明の技術を身につける。

胸部画像診断、呼吸機能検査の解釈、気管支鏡検査の基礎を習得する。

基本的治療技術を習得する（酸素療法、吸入療法、体位ドレナージ、胸腔ドレナージ、気管内挿管など）。

呼吸器感染症の診断およびエンピリック治療を習得する。

気管支喘息急性発作および慢性期管理に対応できる。

科内の検討会において画像所見および症例の適切な呈示ができるよう トレーニングを行う。

指導医の b a c k u p のもと呼吸器科午後拘束医を担当する。

臨床研究： 担当した症例の症例報告を行い、論文にまとめる。

その他： 抄読会に参加し、文献の検索法や読み方、EBM の手法を学ぶ。

#### 2年目（卒後4年目）

臨床： 呼吸器疾患全般にわたる入院患者を主治医として診療する。

各症例の診断、治療について知識を深めEBMに基づいたアプローチを行う。

気管支鏡検査の術者を担当する（気管支肺胞洗浄、擦過細胞診）。

肺癌の診断および治療方針の決定ができる。

在宅酸素療法の導入、外来管理を行う。

人工呼吸管理（非侵襲的陽圧人工呼吸、挿管下人工呼吸）に習熟する。

入院担当症例を中心に呼吸器科外来および新患外来を行う。

指導医の b a c k u p のもと呼吸器科拘束医を担当する。

研修医の指導： 内科全般の基本的技術（医療面接、診察技術、検査手技など）の指導お

よび呼吸器科一般の診断、治療について研修医の指導を行う。

臨床研究： 担当した症例について症例報告し、論文にまとめる。

内科公開検討会の発表を担当する。

臨床経験の中でテーマを決めて臨床データの収集解析を行う。

その他： カンファランス、研究会などに参加し、症例検討を通じて臨床知識を増やすとともに最新の知識の習得をめざす。

### 3年目（卒後5年目）

臨床： 呼吸器疾患および周辺の疾患について経験を積み臨床能力を高めるとともに common disease 以外の呼吸器疾患についてもある程度の知識を得る。

的確な検査計画に基づいて正確な診断を行い、症例の背景を勘案した上での EBM に基づいた治療方針の決定を自力で行う。

気管支鏡検査（気管支生検、経気管支肺生検）および気管支鏡処置（内視鏡的気道吸引、内視鏡的気道内異物除去など）の術者を担当する。

間質性肺疾患の鑑別診断および治療方針を決定できる。外科的肺生検の適応を判断し、検体の処理ができる。

呼吸器科外来、新患外来を担当する。

呼吸器科拘束医を担当する。

研修医、1，2年目レジデントの指導：呼吸器疾患全般についての的確な指導ができる。研修医の指導医として共同主治医となり、診断、治療の過程での問題点についての的確に指摘し、解決に向けて適切な指導を行う。

臨床研究： 症例報告だけでなく、臨床データの収集解析を行い、結果をまとめる。

原著論文が書ける。